

た。

イケジマ 池島 鹿島郡三階(西三階)の十村であつた。その祖は三宅長盛であるといふ。天正十年長盛滅び、遺子宗的は小寺氏を稱して、慶長中長好連に大聖寺陣に従ひ真傷した。その子名兵衛又は宗閑は池島と通稱して十村役となつてゐたが、寛文七年浦野事件に座して追放せられた。

イケダ 池田 鳳至郡七浦庄に屬する部落。明治中に至り、黒杉・新保・上雞座・小町と合併して上山と改稱した。

イケダ 池田 鳳至郡阿岸郷に屬する部落。

イケダアキノブ 池田明信 通稱五六郎。鳳至郡穴水の人。木材薪炭を運漕するを業とし、越中の高木久藏允胤の門に學んで文政十一年六月算學の免許を受け、天保十三年九月廿八日歿した。

イケダアキヒロ 池田明寛 鳳至郡穴水の人五六郎明信の子。算學を父及び金尾五兵衛滿那に受け、弘化四年十一月滿那から免許を受けた。滿那は越中東岩瀬の人で、穴水に來住してゐたものである。明寛明治九年三月五日享年五十四で歿した。

イケダカゲトミ 池田景福 通稱保左衛門。數馬。寛政二年養父左兵衛昌久の祿二百五十石を襲ぎ、組外・大小將・大小將横目から次第に進んで定番頭に至り、百五十石を加へ、天保十三年四月致仕して鶴山と號し、同年歿した。子義八郎正誼四百石を領したが、嘉永四年十一月十六日江戸邸に泊番の際自殺し、安政三年同姓和十郎の二男仁次郎福次に、景福の遺知中百七十石を賜うて新たに家を興さ

しめられた。

イケダキユウカ 池田九華 河北郡能瀬の人。又一丘齋・美國畫史と號し、京に上つて田中日華に就いて四條畫を學び、後金澤に住して醫業に従ひ、明治十四年九月廿五日に歿した。

イケダキユウベエ 池田久兵衛 初めて前田利常に仕へて三十石を領し、その子久兵衛は新知道知合はせて百石に至り、子孫藩に世襲した。

イケダケンシヨウ 池田玄昌 初め金澤の町醫であつたが、元祿十二年召出されて二百石を領し、正徳五年歿した。子孫玄眞・昌眞・玄鹿・玄章・三同・玄昌等相繼いで藩の祿を受けた。

イケダケンシヨウ 池田玄章 通稱養中、後玄章。諱は約。字は原博。養亭と號した。内山養福の次子で、池田玄鹿の嗣となり、京師に學んで寛政六年藩醫に任ぜられ、五人扶持を得、前田治脩・齊廣・齊泰に仕へて、文政十二年遂に祿百五十石を受けた。天保六年六月十八日五十五歳を以て歿。

イケダシヨウサイ 池田松齋 本阿彌光悦の高足で、初は豊臣氏の右筆であつたが、大坂落城の後、來つて前田利常に仕へ、後光高及び綱紀の師となつた。

イケダタカマサ 池田貴政 通稱嘉傳次。新平・祿平。父孫六から配分知百石を受け、組外に列し、前田重教の御抱守に任じ、寶曆十三年御奥小將横目となり、屢俸を加へて三百二十石に至り、定番頭に任ぜられ、寛政六年正月隠居して久殘と號した。
イケダナホシゲ 池田直領 通稱十右衛門。

父は新五郎兵衛政直。御大小將に列し、寶永五年池田吉泰夫人附の御用人となり、祿五十石を加へて三百五十石を食み、正徳五年歿した。

イケダノミヤジンジャ 池田宮神社 能美郡末寺にあつた。式内等舊社記に、『池田宮神社。末寺村鎮座。今稱白鬚明神。舊社也。』と見え、現に同地に白鬚神社がある。

イケダマサノブ 池田正信 通稱吉太郎。權左衛門・忠左衛門。元文四年兄十三郎の遺知三百石を襲ぎ、寛保二年大小將組に班し、後御馬廻組に轉じ、天明五年八月改作奉行兼御勝手方御用に任じ、十二月祿三百石を加へて物頭並の待遇を得た。蓋しこの時前侯前田重教が監國の事に任じ、正信等に財政整理を行はしめた爲であつた。然るに六年六月重教卒去の後、正信に非行があるとの理由により、八月二十一日揚屋に收容せられ、七年四月二十七日五ヶ山流刑の宣告を受けたが、未だ發途せずして五月二十五日牢死した。享年六十三。その子助三は天明五年正月六日別に新知百五十石を受けて馬廻組に列し、後名を喜朔郎と改めたが、六年八月二十二日に御預となり、七年四月能登島流刑を命ぜられ、十月その地に赴いた。正信の次男某は、八年類中からの出願により、剃髮して卯辰蓮昌寺の弟子となつた。

イケダマサハル 池田正玄 通稱十左衛門。元和元年前田利常に仕へ、祿五百石に及び、寛文五年歿した。子孫藩に世襲する。

イケダヤシヨウジ 池田屋小路 金澤堅町眞性坊小路の上なる小路をいふ。舊傳に、此の小路の西角に池田屋長左衛門が數代居住し

て居た爲に起つた町名であるといふ。明治四年四月戸籍編成の時、此の小路から鐵炮町にかけ都べて池田町と稱することになつた。

イケダヤチヨウザエモン 池田屋長左衛門 金澤堅町に住する藏宿で、世々長左衛門の名を襲いだ。堀妻水の由緒帳に據れば、その祖堀茂兵衛は初め堀秀政に仕へて居たが、慶長十五年金澤に來て町人となり、家名を池田屋と稱したのであるといふ。妻水はこの家の出であつた。

イケダヨシヒテ 池田慶榮 ↓マヘダトシヨリ 前田利順。

イケツキ 生唼 源頼朝の名馬生唼は能登島の産であるとする傳説があるが信じ難い。能登名跡志の野崎村伊夜比咩神社の條に、『又牧の駒ありて、此所の池水に來りて住む駒あり。是を此神馬にしてありしに、類ひなき名馬成りければ、時の將軍頼朝公へ召され、名を池好と呼び寵せられしは此馬也。其時頼朝公よりの下し文の判形の物あり。並に梶原等の判形の添狀あり。』と見える。

イケノサンボウヤマ 池ノ三方山 石川郡河内庄奥池領に在る。古跡考に、三方山は同名兩山あつて、奥池村のは池ノ三方山といひ、犀川庄二俣村のは倉谷三方山といふとある。

イケノジヨウ 池ノ城 能美郡輕海郷に屬する部落。能美郡名蹟誌に、この村の辰巳の方高き山に二十間に三十間程の池があると記す。
イケノシヨウジ 池の小路 金澤折違町の内、北側なる二筋の小路をいうた。入口の路傍に惣井戸がある故に、兩小路共に世人の